

ポピュリズムと橋下「維新」

日経新聞 12月21日 1本社説のタイトルは「世界を覆うポピュリズムの弊害」である。関心があるテーマなので目にとまった。すこし紹介したい。

「イスラム教徒を排除せよ」など極端な主張をする政治勢力が欧米で勢力を伸ばしている。経済の先行き不安、テロへの恐怖などを背景に民心をつかんだ。こうしたポピュリズム的な傾向が世界に広がれば、民族や宗教の違いによる摩擦が一段と激しくなり、世界規模の紛争にもつながりかねない。体制への不満というガスがたまっているところに何らかの発火要因があつて初めてポピュリズムの爆発は起きるわけだ。ポピュリストはしばしば一点突破的な主張を掲げ、それさえ実現すればすべてがバラ色といった夢物語を語る。どう反論しても「現にうまくいっていない」と攻め込まれるだけだ。同じ議論の土俵に乗るのはあまり意味がない。日本の政治も近年、ポピュリズム的な傾向が見られる。世界の混乱をもって他山の石としたい。

この社説を読んで思い浮かべたのが、大阪市長を先日退任した橋下徹である。近年、政治の世界、大阪を騒がせ、ポピュリストとして名高い。「大阪都構想」という一点突破的なスローガンを掲げ、とにかく大声を上げ、言葉たくみに走り続けてきた。先の大阪W選挙でも圧勝した。橋下「維新」と大阪については、じっくりレポートしたい。

選挙に勝ち、多数を占めれば「やりたい放題」の政治を行う。安倍首相、「アベ政治」と似たところが多い。写真は日経新聞 20日朝刊だ。リードから—安倍首相は19日夜、大阪市長を退任した橋下徹氏と都内のホテルで食事を共にしながら約3時間半会談した。首相は橋下が結成した「おおさか維新の会」との連携を念頭に、憲法改正で協力していくことを確認した。首相は政界を引退した橋下氏の国政進出に期待を示した。首相官邸とおおさか維新の親密な関係を改めて印象づけた。

安倍政権、とりわけ首相官邸と橋下「維新」との関係は、この会談から多くのことが見えてくる。「大阪都構想」をめぐる住民投票、安保国会前後の「維新の分裂騒動」、W選挙へと続く一連の動きを関連づけると、ここに至る道筋が繋がってくる。図には書かれていないが、ここに公明党・創価学会を加えると、さらにあ政権をとりまく構図がはっきりしてくる。来年の参院選、そのごの憲法改正の動きに橋下「維新」が大きく関わってくるのは間違いない。正月早々の通常国会で、その「正体」が見えてくるだろう。

(2015年12月24日)

